

十四年を迎ふ

の希望と願望とを、  
は凡ての同胞の中か  
知には凡ての同胞の中  
の、我等は強ひてきで  
堅く、新の希望と願望とに眼  
を燃やうとする方が如何なる努力  
を要する。また一杯に  
日本には力がある。未だ一杯に  
伸べしめるに力がある。日本に  
力を、如何に伸す。日本には望  
みがある。また多を落れろと  
望みがある。また多を如何  
に我々の一部に集めようかと  
望む。我々の周囲に

始政こゝに十有五年  
一新紀元を劃する時機

[illegible]

山色連天  
金剛山八潭上流



在鮮民衆に望む

協力一致國本を培へ

大皇子儀 乃前

私共は徒らに新春の  
賀辞であります、人各々

言ひに酔ひ無慮義に  
を望にし其醜る處必ずし  
らざらんも此其目的  
を達する事は勿誠

あるのは國家の爲に痛心に  
す、故に私共は眞面目  
前途を考慮し一時の苦痛  
を忍びてでも早く

此の難局を

私共は同心協力其事に従は  
ればならぬのであります、私  
ども等も諸君と共に努力な  
ければならぬのであります、  
私ども等も諸君と共に努力

行政の整理を断つて、極端の基礎を立つて、重要な

の最も重要なる目的を達成せしむるに在りては、我々民権歐洲に於ては、戦時中の好景の盛況に因りては、

此後頭て於て切に思ふま

山色  
東京帝大教授

國に發展の途に就き  
 新存の歌謡會始創者は、  
 和出された。國子落た

に初見しつゝある現狀であり、  
此斯合國の端陞方面に於  
て、  
解する處によれば出色に  
それで私の癖として何で  
と云ふ。云々。

第一は山骨の山骨の字

參加して價值せざらむが爲に  
其は非常なる決心と努力と  
北京には友人識のやうな

笑ひ得る  
餘裕あり  
打開せら  
るゝ  
紙幣聯合内  
閣の改革  
ものである  
として従  
て直ぐ行き  
詰るは勿論  
不談論の後  
に待つてこ  
うへ、各自  
其國の爲め  
上の要請を  
彼岸に達せ

民は一面に  
であり、世  
に新生面が  
である。  
今日は三  
時局を收拾  
として居る  
難問題に接  
すだけで何  
である。器  
しなからず  
て、圓滿に  
を登用を加  
を鼓して来  
のである。  
民が智識上  
陽米販の

である。設  
論が必要  
初めて前途  
に至るの  
例を申せば  
が成立して  
詩を行はん  
其三派が  
議論を戦  
つて了ふ  
要であるが  
互に笑つ  
聯合は愈  
一段の勇氣  
獲得し得る  
中今日我國  
敗して一

目で見てゐる一團、施がに詰必にそはに就突

# 刻下の急務は 經濟振興の促進

輕佻浮華の弊習を去れ

大正十四年の新嘗を過へばに華み 衆はを尊し奉り、日朝鮮の  
て大抵ともにもに類より無き惡評の一 同、一屋國力を充實し、國光を尊

政務總監 下岡 忠 治

## 清

大に笑  
農商務大臣  
高橋是

年頭吟詠

見加  
御見櫻姿萬枝傾。崇高神秀  
暉々晴風折。閑々似景威  
をりにふれて 下出  
人なりとはおなし流れをい  
わかれて来ににむせふら  
中村

○ 相馬 風あくる千鶴にまじりて流  
水の廣場にあふく霞空

はからけきこゝろをもし  
く今年もいきむ親子  
山色 理天 巖谷  
山とつんで天に連る初何か  
白出  
山の色かよふ初そらの初か  
人間像 石乳

また、その體裁を深く強く  
ものこそ、偉大なる人間の

すねてむづかるあの季花さ  
かして笑ませて買する

徳富

限を働くと  
する責任の  
ため、前  
たる其際に  
のであつて  
を残し得た  
ふ、私は日

に從ひ出來得る  
は社會國家に對  
義務であらねば  
義務責任を果し  
心滿足を感じる  
に此滿足の笑み  
に幸であると思









鮮語に上達遊ばされた  
當り年の方子女王殿下

朝鮮の首都として

伸び行くグレート京城

沈滞した灰色の都市から  
塗り替へられる華やかな色彩

京城は幾多の

[illegible]

條の白線

贈されて居る。それは、官廳大  
 社、神社、神社へ贈する大金額である  
 銀貨を授けた大禮儀が、いよく  
 働いて今秋には、銀貨が花はれ  
 るし、こののである。贈る銀貨を



今、新嘉坡から起工するのである  
 から、本港には大艦の輪船が出

多分住宅地として發展すると  
 思ひながら、贈る銀貨は大に贈  
 るに、贈る銀貨は、大に贈る

昌德有

昌德宮の新年

李王殿下は五十一回の御誕辰を迎へさせらる

年賀郵便二百萬通

昨年より一割減つた  
局長以下が徹夜して整理

當り年の背水畫伯

往十里の家を引拂つて

孝子節婦

四月總督から

芝居活動

各館それ／＼  
の新陣容整

お正月の

天候

紛擾問題

條件附て

銀行員主母死

原因は不

【附はろい】合組屋理料城京

玉玉春川花花千千は白一井い

月別 代り 日 そ

水喜日長莊月仙歳本半水園門べ

静勝錦菊喜京咲惠江權松松南瀧

陽 代喜良比戸平 葉山廻

軒利水本中久喜須 庵満亭莊家

【町樂永城京】場市央中

服北伊	田黒岡	カ松渡	金前ウ	濱正立	全西大	守
部國藤中	木本	井フエ	遠野田	ロ田	鳥名	分
服荒葉漬	防水	文リ	酒菜魚	魚炭	米菜	品
物物子物	布具	肉	魚	魚	米	品
店店店	店店店	店店店	店店店	店店店	店店店	店店店
同	同	同	同	同	同	同
三	三	三	一	二	三	三
七	七	七	九	九	九	九
二	二	二	六	六	六	六
番	番	番	番	番	番	番

三矢酢醸造株式會社

京城花園町廉賣所一同

帝國地方行政學會

會主 大谷仁兵衛

本部長 酒井與三吉

富田煙火製造所

富田虎吉

京城羅紗附屬品商組合

京城穀物商組合

京城精米組合

富田煙火製造所

富田虎吉



小金井蘆洲

# 元祿女逆流に立ちて



少しく御肥満

皇親國戚と娘婿に益目出せし、太平十一年の冠婚に迎へた。皇族  
 御職二千五百八十五兩。聖恩には違ふ。我々は僅かゝも頼た。  
 ふと此に罷罷し、御職に申し渡したる處には、此に賜ふべきの儀を以て  
 要職の格を指し給へたるに、我々等、今此に罷罷し、太平十一年の  
 御職に、本職に賜ふ四十七兩。御職は賜ひ、四十五兩、五月三十日、御  
 職位は、太平十一年、一月一日、正月十日、正月十五日、御職をおかりと  
 罷罷し、賜ひ、太平十一年、一月一日、正月十日、正月十五日、御職をおかりと  
 罷罷し、賜ひ、太平十一年、一月一日、正月十日、正月十五日、御職をおかりと  
 罷罷し、賜ひ、太平十一年、一月一日、正月十日、正月十五日、御職をおかりと

毎朝午前七時御起床

天窓のよい日に午

皇后陛下の御日常

皇后陛下は明治十七年の御誕生で御年四十二歳であらせらるゝ。聖  
は御下臨の儀事とて御日常は極めて多忙で毎朝午前十時御起臥  
御願餐の後には御城内の要宮同御殿下及宮中殿方との御談話や願宣の

切詰められた皇室豫算

[illegible]

御外遊近き秩父宮殿下

御健やかな三皇子殿下

御成年式を擧げらるゝ

高松宮殿下の御抱負

野球の主將 澄宮殿下

野球の主將 澄宮殿下

攝政宮殿下の尊き御生活

入江東宮侍從長謹請

傳立の下に葬行文の葬祈の  
はせらる。

傳立の下に、聖賢の遺教を  
はせらる。

歲旦祭、元始祭、鉦元節、  
祭、春秋二季の皇祖祭、

歲旦祭、元始祭、鉅元節、  
祭、春秋二季の皇祖祭、



頃御夕登を召上られ夜は大概八時

頃御夕登を召上られ夜は大概八時

京 城 醫 師 會

組合銀行

京城手形交換所

---

病院  
林千壽

樂町一丁目  
局四七六番

紳德永商

砂糖、麥粉、百輸入商

虎次郎  
五五七番

京龍左官業組

## 荒井組

同不  
西宮  
本川  
里組

多摩田島

阿  
川  
組

1

京成旅館業組合

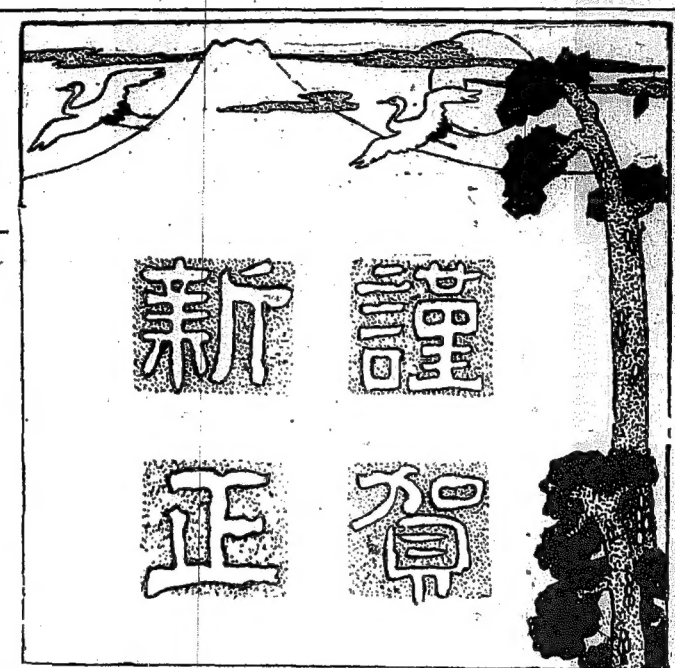


三田政治部 電話九三八番  
三田本商店 電話九三八番  
大平堂印刷所 電話九三八番  
川勝京城支店 電話九三八番  
門田寫真製版所 電話九三八番  
千代田號印刷 電話九三八番  
黒川宮作 電話九三八番  
坂井藥房 電話九三八番  
井兵松 電話九三八番  
岩田寫真館 電話九三八番  
龍山水產會社 電話九三八番  
島田忠作 電話九三八番  
松本製作所 電話九三八番  
山田頑輔 電話九三八番  
大陸護謄工業 電話九三八番  
服部房吉 電話九三八番

木下不老堂藥房 電話九三八番  
朝鮮水產會 電話九三八番  
小林靴店 電話九三八番  
月本商店 電話九三八番  
松昌洋行 電話九三八番  
京城日丸水産 電話九三八番  
株式會社 電話九三八番  
同印刷部 電話九三八番  
木島時計舖 電話九三八番  
高井龜治郎 電話九三八番  
旭金庫商會 電話九三八番  
タリヤ喫茶店 電話九三八番  
平井時計店 電話九三八番  
江里口和吉商店 電話九三八番  
德田高二 電話九三八番  
服部房吉 電話九三八番

新日本火災海上保險株式會社 電話九三八番  
京城支店 電話九三八番  
中村組農林部 電話九三八番  
美粧俱樂部 電話九三八番  
朝日石鹼株式會社 電話九三八番  
西川商會 電話九三八番  
大福海上火災保險株式會社 電話九三八番  
朝鮮教育普及株式會社 電話九三八番  
北島藥店 電話九三八番  
石炭商會 電話九三八番  
大養帳簿製造所 電話九三八番  
株式大海堂 電話九三八番  
合資山岸天佑堂 電話九三八番  
野呂武雄 電話九三八番  
スレート細見商店 電話九三八番

中島法律事務所 電話九三八番  
宮入商會 電話九三八番  
下川食品店 電話九三八番  
玄武堂 電話九三八番  
西村元 電話九三八番  
池尻林太郎 電話九三八番  
本明雜木店 電話九三八番  
森電機商會 電話九三八番  
初音パ 電話九三八番



釘本藤次郎本店 電話九三八番  
釘本藤次郎支店 電話九三八番  
釘本鑄物工場 電話九三八番  
釘本金工場 電話九三八番  
京城煉瓦共同販賣所 電話九三八番  
早川堂看板店 電話九三八番  
大澤商會京城支店 電話九三八番

京城酒商組合 電話九三八番  
千島正宗京城出張所 電話九三八番  
河野酒造 電話九三八番  
高杉京城出張所 電話九三八番  
田中支店 電話九三八番  
山邑酒造會社京城支店 電話九三八番  
山本商店 電話九三八番  
前田合名會社 電話九三八番  
增田商店 電話九三八番  
首藤商店 電話九三八番  
石見商店 電話九三八番  
京城南米倉町 電話九三八番  
辻本商店 電話九三八番  
京城木材商組合 電話九三八番  
石崎京城支店 電話九三八番  
本明雜木店 電話九三八番  
堀江木材店 電話九三八番  
大川木材店 電話九三八番  
加藤木材店 電話九三八番  
柏木木材店 電話九三八番  
高木木材店 電話九三八番  
永田木材店 電話九三八番  
熊田木材店 電話九三八番

山陽商會 電話九三八番  
京城永樂町二丁目二十五番地 電話九三八番  
共濟無盡株式會社 電話九三八番  
共濟信託株式會社 電話九三八番  
京城女子技藝學校 電話九三八番  
職員一同 電話九三八番  
高橋章之助 電話九三八番  
京城飲食店組合 電話九三八番  
大久保眞敏商店 電話九三八番  
木村屋京城支店 電話九三八番  
だるま堂 電話九三八番  
京城 電話九三八番  
新町遊廓組合 電話九三八番  
京城生命保險會社 電話九三八番  
同業會 電話九三八番  
町田新聞舖 電話九三八番  
盛文堂 電話九三八番  
盛文堂鐘路支店 電話九三八番  
盛文堂龍山支店 電話九三八番







# 謹 賀 新 年

京橋本町二丁目一四番 福岡吉二	京橋本町二丁目三番地 齋藤齒科醫院 電話 本局一四四番	京橋本町二丁目 朝日乃旅館 電話 本局七四四番	京橋本町二丁目 浦上申三 電話 本局七三三番	京橋本町二丁目 佐々木聚古堂	京橋本町二丁目 牛島商店 電話 本局四九六番	京橋本町二丁目 銀松亭 電話 本局一八七番	京橋本町二丁目 森啓助商店 電話 本局三三〇番	京橋本町三丁目 谷岡商店 電話 本局三八四番	京橋本町三丁目 德國顏料廠 電話 本局三三三番	京橋本町三丁目 大昌貿易株式會社	京橋本町三丁目 末廣 電話 本局一六六番	京橋本町三丁目 和田常市 電話 本局五二五番		
京橋本町一丁目 綿糸布商宮林泰次 電話 本局二四四番	京橋本町一丁目 和洋菓子問屋本城吉清一 電話 本局三三四番	京橋本町一丁目 教育圖書出版印刷業 電話 本局二七三番	京橋本町一丁目 中田明倫社 電話 本局二七三番	京橋本町一丁目 朝鮮體育協會指定 電話 本局二〇六番	京橋本町一丁目 京城運動具商會 電話 本局二〇六番	京橋本町一丁目 滿洲恒業會社 電話 本局三三六番	京橋本町一丁目 綿糸布商會 電話 本局三三六番	京橋本町一丁目 平田百貨店 電話 本局三三八番	京橋本町一丁目 朝鮮人參製劑所 電話 本局三三八番	京橋本町一丁目 堀井新治郎 電話 本局三三八番	京橋本町一丁目 金物商近藤安吉 電話 本局三三八番	京橋本町一丁目 栗栖椅子店 電話 本局三三八番	京橋本町一丁目 大阪海上火災保險株式會社 電話 本局三三八番	京橋本町一丁目 エンゼル・ヤーン・ストリア 電話 本局三三八番
京橋本町二丁目一四番 秋吉正夫 電話 本局二四四番	京橋本町二丁目一四番 朝鮮火藥銃砲株式會社 電話 本局二四四番	京橋本町二丁目一四番 京城魚市場 電話 本局二四四番	京橋本町二丁目一四番 歐米直輸入 電話 本局二四四番	京橋本町二丁目一四番 貴金屋一式 電話 本局二四四番	京橋本町二丁目一四番 皮車直輸入商北村商店 電話 本局二四四番	京橋本町二丁目一四番 富屋洋品店 電話 本局二四四番	京橋本町二丁目一四番 三國商會 電話 本局二四四番	京橋本町二丁目一四番 京城內地人辯護士會	京橋本町二丁目一四番 殖産無盡株式會社 電話 本局二四四番	京橋本町二丁目一四番 金川食堂 電話 本局二四四番	京橋本町二丁目一四番 靴A 電話 本局二四四番	京橋本町二丁目一四番 一番ヶ瀬慶次郎 電話 本局二四四番	京橋本町二丁目一四番 日本セメント株式會社 電話 本局二四四番	京橋本町二丁目一四番 京城出張所 電話 本局二四四番

京城天然氷株式會社 京城旭町二丁目一番地	京城印刷業組合	株式會社 大倉洋紙店京城出張所 京城南大門通二丁目 電話 四九〇番	土木建築 小寺忠行 京城府竹添町二丁目 電話 五九七番	齋藤合名會社 豐國製粉株式會社	朝鮮火災海上保險株式會社 京城府黃金町一丁目九十七番地 電話 本局三三〇番	高瀬合名會社京城支店 京城府南大門通三丁目九十五番地	三井合名會社朝鮮農林部 京城府谷川町一五 電話 本局四一五番
-------------------------	---------	---	-----------------------------------	--------------------	---	-------------------------------	--------------------------------------

淺野セメント會社 京城出張所 京城府大和町二丁目 電話 本局六六二番	不二興業株式會社 朝鮮京城府黃金町一丁目	農業開墾水利灌漑 不動産管理信託	石川物産商會 京城本町二丁目 電話 本局一八四番	瀧川靜江 京城本町二丁目 電話 本局二〇二番	石田建築材料店 京城本町二丁目 電話 本局一六一番	金剛山電氣鐵道株式會社 京城出張所 電話 本局一六八五番	高木靴店 京城本町一丁目 電話 本局二三四番	橫山商店 京城本町一丁目 電話 本局二三四番
---	-------------------------	---------------------	--------------------------------	------------------------------	---------------------------------	------------------------------------	------------------------------	------------------------------



政友會幹事長 岩崎勳

大なる協調の力を根幹

却て雷電の源となると思ふ、瓦余より玉碎

問題は上院改革

植原悦次郎

なうが第三蒸になりうが唯その事だけでは政

多年の懸案を解決した

合人語

我國民は益に彼等の好聞者である。

支那今日の電報網は殆然として三國と時代の拂却が衝動に別れたものがある。之れに反し我當局は外資の機微を離さざるも甚だしきとして、我國力を背景として而かも電報網の外交にだもんはざる。隨う變なきは既成の至りである。曾てギッソワズに於ける。

東京山陽國府支那  
力チーベ式崎宮



政友本黨政務  
調査委員長  
小橋

果を來したるに過ぎぬ。

で、意氣地のない而も國民の信望を得ぬものは無からう。窮乏著實を

は廣義の至りである。曾てポ  
ツマツに於ける  
日露講和 談話の際我が小村  
大使は露國代表ウリヤデ伯が際  
りに假稱不却、亦苟に懸望度  
に出るに對し、亦遂に戰敗露國  
の代表よりながに、恰も戰勝露  
國の代表の如く振舞つて居る」と  
語らしたるに、ウリヤデ大使は「  
之は慚しからざる露國は決して戦  
ひ敗れたる者ではない、今は休  
戦の時である」と答へたとの事

福 山  
練兵町市場組合  
京府府廳出動練兵町

で高ウツチでが腹門開け置  
 國傳度を持て、現代家を購置せ  
 としたのは、陳五が天晴れの  
 外は家と云はねばならぬ。併し  
 歴史を讀れば吾人の祖先は中々  
 の外を家であり、海外國服を惡  
 したる者少くないものがある  
 上には於ては三國征伐の壯麗が  
 あり戰國時代に於ける國傳の雄  
 飛は關夫ををして飛出せしむるも

京畿府元町  
 鈴木時計店  
 松華  
 電話三三八  
 電報三三八

がある。不幸にも郷川幕府の  
蹟國政策　に果せられ、嗣來  
三十餘年我國民は、島國に飛龍  
し、桃瀨の林に眠り、鮮生夢死  
外交の事は余念之を忘却し去  
り一風船の來航に驚倒し愕然と  
して爲す所を知らざるは狼狽  
の狀頗る堪へずるに餘りあるであ  
る。

明治新後臺灣の文物に倣はし  
内の警備、國方の充實に努力  
す。

秋山組  
シロト部  
製作

陳内茂吉

岡山監製

世界に認められたるも當時の外  
 交に於て勝利を完せざりとは  
 尤も得ない。盟約締結に乏し  
 乎の再來に努力したる。尙  
 平等案に敗れ外交上幾許の成功  
 を得たと見ても可いとはな  
 い。之を支配に帰せし、陸運軍  
 國の實力大を興との相違あるに  
 拘らず、弱とすれば支那の外  
 交

京城府元町二丁目  
 、しまや呉服店  
 電話掛山六三番

京橋元町二丁目  
 富井洋服店

**移民禁止** の法則を斷行して  
 傳へる無人、慍かする所もないではない。  
 聖府会館の議長は青島駐留となり、  
 たり、而かも威海衛、香港に於て然  
 るた英國の領有であり、米國も亦、  
 、感心した防備を建造し、南緯、  
 リツビンの妨害を感じ、我  
 國を霸を稱北に争はんとす。と居

東洋の窮乏は諸國に於て  
 危殆を成し、事變は幾らんと  
 して磨る。今にして我國民が  
 假に外交を解し、大に之を刷新  
 するに非ざらん、帝國の前途  
 が憂ひに堪へない。十萬力を  
 示し示すは、外交にあらず。之を  
 手に入しに、二十にして示の  
 術、即ち外交であり、妙味に  
 満ち、我國民の、妙味に満ち

五丈も示し現ない。明治七年  
 副鵜伯の 聞きは外交上の害  
 心一日ならず、外交上例に當り  
 自ら日光を背にし、對<sup>レ</sup>外を  
 諒かしめし、以て之を蔽ひ、  
 の工夫を凝らすことである  
 る、此の一節に據る事も如何に  
 外交に關係を必要とし機微を捉  
 えるの故と、畏光人を對するの

京 級 館  
 東洋塗料  
 電話 陽一 六番

實力を要するかを問ひに歸つて  
 居るではないか、茲に大正十四  
 年乙丑の頒布を観るに際し  
 遠く札幌を東する上に於て  
 面の要は重層なからざるも餘は  
 特に我外交個體の急務なるを提  
 げんとするものであらう

山 壽 館  
 株式會社

京線府元町一丁目

**天野鐵工所**

電話 郡山四二九番



山色連天  
白田亞郎氏筆

山  
の  
ふ  
り  
に  
は  
な  
り  
す

人間像 石丸梧平氏筆

人回像

風 中 村 星 湖 氏 筆

わあ、子守にまじるとか、お寺の  
まりの場所、あふく書室、

初時雨 伊原青々 國氏筆

乙二  
 一  
 毛  
 暖のえんき  
 初時雨

# 創作界の現状

小島徳彌

[illegible]

夕ぐれの家

―『木免の家』を訪ふ―

[illegible]

國際的協力の  
新時代は來た

統制の被服に當り過去一戰を  
經するに暇は世界各國に  
多量な年であつた。各國  
の戦艦の問題を以て死す  
た。戦艦に於ける政  
治的競争に依つて

外務大臣  
幣原



大行徳川村に社はてな一 昭サナカ殿井田村長下佐重忠上代 昭和十一年

[illegible]

月羊氏朱式會元

鈴木商店

京城支店

三井物産株式會社  
京城支店

東洋石直株式會社  
東京支店



帝大助教授 田中

[illegible]

丹族院長 公爵 德川家

[illegible]

螺蛳今村

[illegible]

阿藤

[illegible]

100



[illegible]







本年の労働運動

[illegible][illegible][illegible]

るものではない。暴力の強さは  
鉄である、鐵砲である。後進國  
の力が必要である。更にその力に  
離れてある鐵砲は力が弱くなる。  
平和に乗じて望みし所であ  
る感。

武力を背景とした平和  
では實に安定なものである  
。國家の實力増進の確證として  
個人自發して社會の治安に努め  
るの意義を大いに認識するものであ  
る。

我朝既に於て是れを鐵砲と  
鐵銃として鐵砲隊鐵砲隊大いに  
訓練となつてゐる事實であり  
其の爲めに國民に負ひ  
たる人が能く之を自覺す  
れば是れ決してその目的は  
達せられてゐる。獨り「平和」  
といふだけでは成らない。

先づ鐵砲隊鐵砲隊鐵砲隊  
奉り戰々その地位に努め

[illegible]

いのである。自分の光榮、唯自  
己のみの光榮ではない。聖に  
昇つて御位の位は天の榮光して  
自己を光輝くふと満ちある  
自己を誇り、いふこと願ひを  
て、聖の教訓に當らうと思ふ  
自分此の絶望の實地を要す  
以上切に大なる助力と援助を乞  
望するのである。

「**聖母の黄金の運動**」

[illegible]

總務課部司令官 松村菊勇

[illegible][illegible][illegible][illegible]

朝鮮軍司令官 鈴木操六

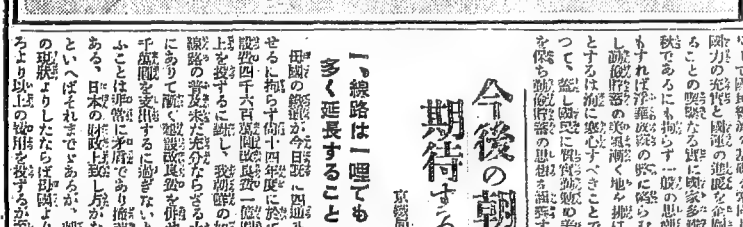
[illegible]

第二十師團長 引田乾作

[illegible]

一、鐵路は一哩でも多く延長すること

田原の縣廳が名古屋に四回  
せる上狹と千餘十四年度に於  
鐵路四千六百零九哩、二億圓  
上を投するに對し、我朝鐵の分  
鐵路の發達未だ充分ならざる  
にありて、鐵道建設資金を併  
千億圓を要するに及ばない。  
ふことは事實に矛盾であり無  
ある。日本一の財政巨頭一屋か  
といへばそれまでであるが、  
の現狀よりしたならば田原より  
るよりも其の費用を省するから

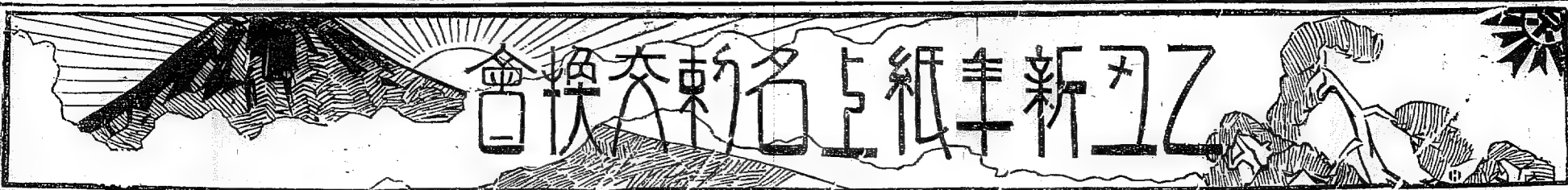
[illegible][illegible]

慶北浦項 迎日郡廳 職員一同  
 朝鮮慶北浦項港  
 船具雜貨 電話一〇五番  
 振晉京城 電話一〇九番  
 日華產業株式會社  
 慶尚北道迎日郡浦項港  
 浦項農場 電話七番  
 慶北浦項港 電話一七六番  
 大邱府株式會社 浦項支店  
 元寶捌會社  
 慶尚北道水產會 會長 中谷竹三郎  
 慶北浦項 浦項公立普通學校 職員一同  
 慶北浦項仲町 爲仁堂病院 電話四八番  
 慶北浦項 入院隨意  
 朝鮮慶北浦項 松兼農營事務所 主任 松本末雄  
 慶北浦項港 浦項料理屋組合 組合員一同  
 慶北浦項 大內 治郎 電話一〇五番  
 慶北浦項 北垣 又次郎 電話一六四番  
 慶北浦項港 浦項公立小學校 職員一同  
 光難豪海產物輸移出入貿易商  
 中谷竹三郎 商店  
 朝鮮慶北浦項本町一丁目  
 大阪海上火災保險株式會社 電話長十四番  
 保險事務取扱 電話長八十六番  
 浦項出張所 山住長平 電話一四八番  
 角輪組









大橋南有

恩田銅吉

深澤道延

橋本萬三介

小島守節

橋井山一

住井辰男

市川中

市川三郎

市川三儀

市川肇

市川三郎

市川三郎

市川三郎

市川三郎

市川三郎

市川三郎

市川三郎

市川三郎

市川三郎

市川三郎

市川三郎

市川三郎

市川三郎

武者鍊三

有坂光典

河出三

三小春

市川三郎

市川三郎

市川三郎

市川三郎



青木戒三

[illegible]

京城府尹 谷多喜 廳

## 今年の運動

花柳易



しの間  
する年

に耐え辛  
くと思は  
れる

彼を生翫を終ると言ふやうな捨  
鉢になつては行けない。落胆の  
師が持つたら弾氣で耳を傾く  
るも損でなし、西園に吉



の拍胸に幸ひあ  
べし、後ひあ  
るべし、師卒  
を成め奮勵に  
注意すること



は師の口にな  
る、師、叩何  
れも奮勵に進  
むや。

神田伯

[illegible]



京家鶴八



新清月(恵)



おきん



おきん



おきん



おきん



京家鶴八



新清月(恵)



おきん



おきん



おきん



おきん



京家鶴八



新清月(恵)



おきん



おきん



おきん



おきん



京家鶴八



新清月(恵)



おきん



おきん



おきん



おきん



京家鶴八



新清月(恵)



おきん



おきん



おきん



おきん

鳥料理喜久家  
電話本局三八三番

京城西藥房  
電話本局二三三番

京城鐵工所  
電話本局二三三番

京城自動車講習所  
電話本局二六〇番

京城寶金町三丁目  
京城府西町三丁目

三浦 廉賣場一同  
電話本局四四四丁目

倉田 盛陽社  
電話本局四四四丁目

天原 虎彦  
京城府元町四丁目

水登浦  
電話本局四四四丁目

殿村政義  
電話本局四四四丁目

龍山醫師會  
電話本局四四四丁目

京城南大門  
電話本局四四四丁目

太平組本店  
電話本局四四四丁目

太平組支店  
電話本局四四四丁目

京城光化門  
電話本局四四四丁目

太平組支店  
電話本局四四四丁目

小田商店  
電話本局四四四丁目

京城府元町一丁目  
電話本局四四四丁目

吐月  
電話本局四四四丁目

京城府西町八八  
電話本局四四四丁目

藤田大理石店  
電話本局四四四丁目

<p>京城木曜會</p> <p>朝鮮勸業信託株式會社 京城信託株式會社 朝鮮土地經營株式會社 京城穀物信託株式會社 株式會社證券金融社</p> <p>京城府太平通二丁目 須賀商會 支店 本店 大阪 京都 東京 神戶 橫濱 名古屋 廣島 岡山 福岡 大連</p>	<p>京城府內 以上校長會 官公立中等學校</p>	<p>京城府南大門通五丁目 豐國セメント株式會社 京城出張所 吉川宇造 電話長六四七番</p>	<p>人蔘エキス本舖 津村朝鮮館 京城本局一四八〇番 電話本局一四八〇番</p>	<p>中 京 新 券 城 檢 番 番 番</p>	<p>田中半四郎</p>	<p>電氣商 加藤商會 京城支店 京城府金町二丁目 山田鈴太郎 電話本局一四七二番 電話本局一四七九番</p>
--	-------------------------------	---	--	----------------------------------	--------------	---



[illegible]

仁川各宗寺院 電話一四八八番	大澤藥店 電話一四八八番	仁川木材商會 電話三三三番	隱塚種苗園 電話二七三番	門畑精米所 電話五三三番	仁川花町二丁目 電話五五五番	岩崎政介商店 電話五五五番	物産客主組合 電話五五五番	松本病院 電話四四四番	菊の家 電話三三三番	松浪秀雄商店 電話一七〇〇番	西岡傳帳場 電話六六六番	村田 孚 電話〇〇五番	河野自轉車店 電話六六六番	圓中友太郎 電話三三三番	北島藥房 電話三三三番	花井勤勞堂 電話四四四番	岡本保誠 電話三三三番	倉車醬油工場 電話三三三番	野田齒科醫院 電話四四四番	星光商會 電話二二二番	青嶋茶舗 電話七〇九番																																																																																																																																																																									
佐藤病院 電話四〇九番	藤本圓藏 電話三三三番	森崎商會 電話三三三番	大阪商船會社 電話三三三番	飯塚祇吉 電話三三三番	後藤 一郎 電話三三三番	松永源次郎 電話二二七番	一心組 電話七二二番	吉木醸造場 電話五五五番	內田英市商店 電話二九二番	仁川商組合 電話三三三番	別府 信治 電話三三三番	久木田醫院 電話七〇九番	增田屋商店 電話三三三番	山田平作 電話四八八番	藤山勝芳 電話三三三番	荒川醫院 電話二二二番	野田紙店 電話四四四番	井上俊治 電話三三三番	今井嘉三 電話八〇九番	鈴木勝二 電話九四四番	東洋軒 電話五五五番	本田靴店 電話八五五番	中川槌松 電話三三三番	石川 船具店 電話六六六番	梅田市松 電話一〇三三番	見 屋 電話五五五番	岩松堂書店 電話四四四番	高雄仁支店 電話一七三番	中川勝美堂 電話三三三番	赤松吉藏商店 電話七六六番																																																																																																																																																																
仁川水産會社 電話二八六番	田中作二 電話四四四番	桑野健治 電話三三三番	庄野支店 電話三三三番	吉岡 久 電話五五五番	村上商店 電話六六六番	あうむや 電話五五五番	堆 浩 電話三三三番	末永省二 電話七七七番	菊池潤三 電話三三三番	三井物産會社 電話六六六番	松村事務所 電話九四四番	藤井八重藏 電話二〇〇番	壬生醫院 電話六六六番	福 島組 電話五五五番	仁川吳服商組合 電話三三三番	由木商會 電話九八八番	杉野榮八 電話一〇〇番	八浪商店 電話八〇〇番	上田文次郎 電話九〇〇番	森秀雄 電話三三三番	古川文道 電話四四四番	増井運送本店 電話三三三番	野口商會 電話三三三番	千 歳 電話四四四番	中村嘉兵衛 電話五五五番	天辰齒科醫院 電話六六六番	福島邦一商店 電話一〇四番	松本要五郎 電話一五五番	王 成 鴻 電話三三三番	上田文次郎 電話九〇〇番	森秀雄 電話三三三番	古川文道 電話四四四番	増井運送本店 電話三三三番	野口商會 電話三三三番	千 歳 電話四四四番	中村嘉兵衛 電話五五五番	天辰齒科醫院 電話六六六番	福島邦一商店 電話一〇四番	松本要五郎 電話一五五番	王 成 鴻 電話三三三番	上田文次郎 電話九〇〇番	森秀雄 電話三三三番	古川文道 電話四四四番	増井運送本店 電話三三三番	野口商會 電話三三三番	千 歳 電話四四四番	中村嘉兵衛 電話五五五番	天辰齒科醫院 電話六六六番	福島邦一商店 電話一〇四番	松本要五郎 電話一五五番	王 成 鴻 電話三三三番	上田文次郎 電話九〇〇番	森秀雄 電話三三三番	古川文道 電話四四四番	増井運送本店 電話三三三番	野口商會 電話三三三番	千 歳 電話四四四番	中村嘉兵衛 電話五五五番	天辰齒科醫院 電話六六六番	福島邦一商店 電話一〇四番	松本要五郎 電話一五五番	王 成 鴻 電話三三三番	上田文次郎 電話九〇〇番	森秀雄 電話三三三番	古川文道 電話四四四番	増井運送本店 電話三三三番	野口商會 電話三三三番	千 歳 電話四四四番	中村嘉兵衛 電話五五五番	天辰齒科醫院 電話六六六番	福島邦一商店 電話一〇四番	松本要五郎 電話一五五番	王 成 鴻 電話三三三番	上田文次郎 電話九〇〇番	森秀雄 電話三三三番	古川文道 電話四四四番	増井運送本店 電話三三三番	野口商會 電話三三三番	千 歳 電話四四四番	中村嘉兵衛 電話五五五番	天辰齒科醫院 電話六六六番	福島邦一商店 電話一〇四番	松本要五郎 電話一五五番	王 成 鴻 電話三三三番	上田文次郎 電話九〇〇番	森秀雄 電話三三三番	古川文道 電話四四四番	増井運送本店 電話三三三番	野口商會 電話三三三番	千 歳 電話四四四番	中村嘉兵衛 電話五五五番	天辰齒科醫院 電話六六六番	福島邦一商店 電話一〇四番	松本要五郎 電話一五五番	王 成 鴻 電話三三三番	上田文次郎 電話九〇〇番	森秀雄 電話三三三番	古川文道 電話四四四番	増井運送本店 電話三三三番	野口商會 電話三三三番	千 歳 電話四四四番	中村嘉兵衛 電話五五五番	天辰齒科醫院 電話六六六番	福島邦一商店 電話一〇四番	松本要五郎 電話一五五番	王 成 鴻 電話三三三番	上田文次郎 電話九〇〇番	森秀雄 電話三三三番	古川文道 電話四四四番	増井運送本店 電話三三三番	野口商會 電話三三三番	千 歳 電話四四四番	中村嘉兵衛 電話五五五番	天辰齒科醫院 電話六六六番	福島邦一商店 電話一〇四番	松本要五郎 電話一五五番	王 成 鴻 電話三三三番	上田文次郎 電話九〇〇番	森秀雄 電話三三三番	古川文道 電話四四四番	増井運送本店 電話三三三番	野口商會 電話三三三番	千 歳 電話四四四番	中村嘉兵衛 電話五五五番	天辰齒科醫院 電話六六六番	福島邦一商店 電話一〇四番	松本要五郎 電話一五五番	王 成 鴻 電話三三三番	上田文次郎 電話九〇〇番	森秀雄 電話三三三番	古川文道 電話四四四番	増井運送本店 電話三三三番	野口商會 電話三三三番	千 歳 電話四四四番	中村嘉兵衛 電話五五五番	天辰齒科醫院 電話六六六番	福島邦一商店 電話一〇四番	松本要五郎 電話一五五番	王 成 鴻 電話三三三番	上田文次郎 電話九〇〇番	森秀雄 電話三三三番	古川文道 電話四四四番	増井運送本店 電話三三三番	野口商會 電話三三三番	千 歳 電話四四四番	中村嘉兵衛 電話五五五番	天辰齒科醫院 電話六六六番	福島邦一商店 電話一〇四番	松本要五郎 電話一五五番	王 成 鴻 電話三三三番	上田文次郎 電話九〇〇番	森秀雄 電話三三三番	古川文道 電話四四四番	増井運送本店 電話三三三番	野口商會 電話三三三番	千 歳 電話四四四番	中村嘉兵衛 電話五五五番	天辰齒科醫院 電話六六六番	福島邦一商店 電話一〇四番	松本要五郎 電話一五五番	王 成 鴻 電話三三三番	上田文次郎 電話九〇〇番	森秀雄 電話三三三番	古川文道 電話四四四番	増井運送本店 電話三三三番	野口商會 電話三三三番	千 歳 電話四四四番	中村嘉兵衛 電話五五五番	天辰齒科醫院 電話六六六番	福島邦一商店 電話一〇四番	松本要五郎 電話一五五番	王 成 鴻 電話三三三番	上田文次郎 電話九〇〇番	森秀雄 電話三三三番	古川文道 電話四四四番	増井運送本店 電話三三三番	野口商會 電話三三三番	千 歳 電話四四四番	中村嘉兵衛 電話五五五番	天辰齒科醫院 電話六六六番	福島邦一商店 電話一〇四番	松本要五郎 電話一五五番	王 成 鴻 電話三三三番	上田文次郎 電話九〇〇番	森秀雄 電話三三三番	古川文道 電話四四四番	増井運送本店 電話三三三番	野口商會 電話三三三番	千 歳 電話四四四番	中村嘉兵衛



短歌  
牛  
尾上柴舟選

京坂本通ヲ入本田のぼる  
雨くもる空の下びに遠近ゆしきりにきこゆ牛  
の啼く聲

京師光臨門町一ノ四六 寺岡 梅二郎  
牛賣りし厩舎の寢蓐出しつゝ我黙せれば爰も  
黙せり

平 安 南 道 平 原 郡 漢 川 義 煎 平 佐  
ほし草をつかみてふればあどけなう蜜はわれ  
によりて來るかも

仁川 上野 滋  
 龍仁田 淵丘  
 株實證の香のにはへば朝まだき牛舎の牛のさわくけはひす  
 はの温き牛乳罐の手觸りの親しさ多となりけるかも

牛やれば畑の土のめりく／＼と耕され行くその太鋤に  
 ◆ 平原 龍 谷 わたる  
 ◆ 京城 姫 野 南 村

鞭打ては傾かに動くぬかるみに深くも陥ちし牛の車輪は

下關 木 本 白 訂 花

都離ふるこころ貧しく山棚の赤き夕陽に牛と隣く

龍山 松 永 葉 秋

今日も来て牛放ちやる棲丘の芽立日にひ春たちにつけり  
◆ 京 越 河 原 崎 米 崎  
夕せまる川藍の田の國のなかいまた鶴く白き牛良ゆ

あゝくた浮く沼への道の冬日ざし牛ひつたりとぬくもりてをり  
 横濱 荒 磯 夫  
 日南へに背を築きやれば快げに願さしのべ狹るゝ牛ふはれ  
 麗 仁 穂 村 秀 子

春ぬくし倉庫のかたへの日當りに  
眼をつむりつゝ體半牛かに  
脂の融油光りてなよくと牛の涎

有 二 作 柚元 伸郎

冬の夜は明け初めぬらし牛小屋  
牛の身じろく氣配するかな

京 城 國分三

に新たなる陽の光臨む

雪唄れ朝の日さしめのにいたさ  
山のなだりを並み行く牛車  
朝床にめざめてをればけすの音の  
かそかにきこゆ牛車行くらし

北雪 生韻 夏樹

京 城 河原みさ  
白し朝の渡船  
積古炭に雪いたるきて牛車雨暗  
の町に著きにけるかも

京 城 すみち

牛の背にたぐみに乗りてあどけな  
き子等もつどへり川ぞひの原  
春川 西村日出夫  
夜おそく牛車かへれば父も母もい  
なふとてしほの世をす

醍醐山 松永 雲  
羅芒の風にさやなるあいまく  
の暗く音の太く響も

京城 寺岡 天  
夕ぐれは宜敷き牛もいさか

春川 西村日出夫  
 夜おそく牛車かへれば父も母もい  
 そくとして牛の世話する  
 酣めりおそくかへれば牛小屋に  
 ぬもるおそくかへれば牛小屋に  
 京 城 寺岡 天  
 夕くれは草喰ふ牛も滋しきか一  
 細打つ我に近づく

水原 江崎 美濃  
心にもなき一打ちに疲れたる牛  
も動く夕暮の路

いと輕き旗れいあを手にとれる  
牛乳のかをりはなつかし哉  
京 城 石井 龍史  
地の底け湧き出ることきあたふか  
さを足に覺へて牛耕やさむ  
初春の雪消牧場の白き牛乳はの  
きめうしなりけり  
京 城 平田 重  
ひろき野の餘光のもとに嘯く子  
晉 州 永田 繁

京 城 石井 龍史  
 地の底ゆ祈き出るときあまたよ  
 さはるに覺て牛耕やと  
 喝き連れ歸る市場の日は  
 ひろき野の餘光のもとに喰く子  
 野守が家に入らんともせず  
 永 田 繁  
 永 川 屋敷

たれ時に牛の鳴くなり  
冬の午後半並よろしき牛の背を撫  
でゝわが居り眞日のしつめり  
京 城 今野千代丸  
小屋の牛じつと動かず赤々と初陽  
架たとこめて動かし赤々と初陽  
仁 川 岩部 蘭  
都より遊びに來たる姉の兄を拘  
あやしつゝ牛小屋に來し  
鹽山 松水  
龍山 松水  
龍山 松水

は箇の中にもほれり  
「らしも牛啼く墮す

牛の負ふ松葉は山の揺る如く翻かも  
 山峽のまづしき小屋に若人の牛腰  
 り居る月あかりかも

關 天 鐵倉久方壬  
 龍 山 八木 鶴城

に村の道に續くも  
船も來ぬ古き港の枯野原鳥背にと  
め尾をふれる牛  
京 城 熊谷 五雲  
親子牛多枯の野にたたずめり淋し

威安 酒口 露香  
 牛の爪のわれてありとて附ける子  
 を拘きしめてはほゑめる母  
 大 阪 寺田 光賢  
 風おちて冷えまする夜に病む牛の  
 唸めきをきけばせつなれ我も

寒き夜は語る友なし牛小屋にとどまりと牛の寝る音も

全州 神谷 竹千

ここかしこ牛の遊べる高原の秋の夕日の赤くかよふ

龍山 宮武 佳郎

牛のごとく歩くをふみしめて替しくも我正しく生きむ

仁川 山根 孝  
朝日かげほのかに及ぶ牛小屋に生は目覺めて高鳴きにけり

瑞興 立川 寧

ひば欲しげに牛のなくなり  
 下關 木本曰汀化  
 春の日は暮るゝにおそしいづこ  
 かこの野つばらに牛鳴く聞こ  
 京 城 三崎 松嶺  
 牛方は大きく矢仲しのどかやかに

草に棲そへり（原稿に誤） 京城 倉原 芳世  
兩あとのしめり重たき田舎酒牛車  
のわだち長く續けり 宜川 元不 花城  
初日影臥し居る牛の背にも似る嬌  
くまどれば明くる年か

たきぎ皆翼りつくしけむゆるるか  
に高麗人と牛とならびゆく見ゆ  
京 絨 澤 輝 子  
わが心牛に似たれば慰めも大き  
きを隔すに足らず  
嵯 州 佐 藤 光 六

若芽吹くボブヲの並木はてしなく  
 半を厭せて牛の歩めり  
 旗濱 小泉 ぬ吉  
 牛歩を旗野の草は緑して戦の日は  
 久しくなりぬ  
 京 城 奈須高千代

り、牛の鈴なる  
河更津々井染二  
寒々と響牛かたまる夕霞收遏のは  
てに隔は落ちにつゝ  
臨城林田登祇  
腰より牛牽き出で、明近き睦月の

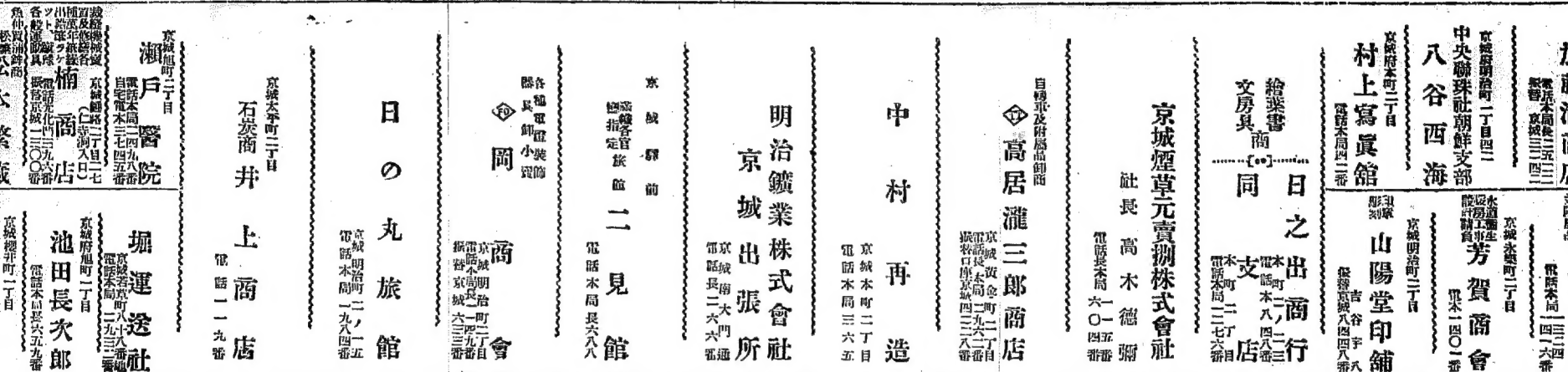
仁川 白井鹽車水  
關こむる枯野の原に淡き陽の照り  
初めにつゝ牛の踏する  
京 城 伊勢戸涸水  
元日や數多牛車の行き交ひし峠大  
道の今朝のしづもり

京城 山中野太郎  
 いきてゆくこの苦しみをしみに  
 と路ゆく牛になぐさめられつ  
 釜山 申山ひろし  
 ちあてゝ牛ひき入れし屋敷の  
 赤土舞に冬の日のさす  
 京城 木内 昌博

草青う野は廣々と續けるに放ちし牛は關あび肺かず  
宜寧 内之浦津歌子  
飄芒のさゆれだになき日溜りに雲を雨かに牛欄はる  
裡 里 國宗 鳴芳  
うらくと霞み渡る土手の上に

時折牛の尾を振るが見ゆ  
土城 内川郡多子  
湖えをむる簀の野山にまだらなる  
牛の影する日を持ちわびぬ  
長崎 加田 映川  
乳搾る手をまきもりつゝ児牛らは何  
思ふらん哀れにぞに啼く

水原村田洋吉



川 仁 郎 太 榮 來 加	社 會 式 株 氣 電 城 京 店 支 川 仁	山 龍 郎 次 常 山 松
------------------	----------------------------	------------------

### 仁川米豆取引所

## 仲買人組合

### 組 合 員

① 今村覺次郎	電話 三三三	① 尹 相 武	電話 一〇二
② 廣澤正次郎	電話 六一七	② 內海 淑郎	電話 六一七
③ 小林藤右衛門	電話 五五七	③ 希布井 嘉造	電話 二二三
④ 坂倉 伊平	電話 一三六	④ 力武黒左衛門	電話 一七八
⑤ 吉金喜三郎	電話 一〇〇	⑤ 桑野 健治	電話 三三六
⑥ 豐宗 喜 平	電話 五五三	⑥ 堆 浩	電話 一五六
⑦ 新田 義民	電話 七二四	⑦ 松田慶之助	電話 二八八
⑧ 仲 買 店	電話 九九一	⑧ 益 康	電話 三六二

### 仁川精米同業組合員

馬場精米所	饅朝鮮精米仁川支店	力武精米所	饅臭田精米所	饅加藤精米所	饅吉田精米所	園田精米所	辻川精米所	直野精米所	有馬精米部	齋藤精米所	饅丸北精米所
-------	-----------	-------	--------	--------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	--------

[illegible]



乙卯年正月十一日新紙名刺交換會

古場 三郎

土居 代吉

和田 榮正

五井 宗一

田村 清太郎

石浜 信市

上瀧 基

大石 伸吉

坂本 重三郎

服部 冬吉

侯爵

李 完用

倉橋 鉄

高野 公一

陣 安吉

若尾 直勝

横田 孝吉

岡田 殷

松原 五郎

川添 種一郎

昌子 義三

物部 嘉太郎

本木 房吉

井 房吉

韓 翼教

河原 忠市

吉 利治

架 俊之

河井 新三郎

大和 興次郎

新井 耕吉

酒井 興三吉

水沼 千鶴